



解説者・タレント

仙台市内で開かれた講演会の終了後、舞の海秀平さんの楽屋へ。久々に訪れたという仙台・宮城の印象や好きな日本酒、50歳の節目の年など、一つ一つの質問に真剣に耳を傾け、丁寧に答えてくれた。
(5面に関連記事)

―仙台・宮城の印象は？
仙台といえは、さとう宗幸さんの「青葉城恋唄」。カラオケで歌います。青葉城恋唄は曲自体好きで、仙台の風とか匂いとかを感じます。青森県出身の立場からいうと、仙台は理想の都市。雪は深くなく、東京までの距離が程よく、住みやすそうというイメージです。
―東日本大震災から間も

なく7年。震災直後、宮城にいらっしやったそうですね。
震災から1カ月ぐらいたして、石巻など沿岸地域に取材に行きました。震災があつて人間の素晴らしさと、人間の複雑な部分を感じる思いがありました。協力し、支え合い、励まし合いながら生きている方がいる一方で、東京などでは被災地で作ら

れた食べ物が売れ残っていることもあります。その嫌らしさには失望します。
―今回の講演会にはシニア世代が多く来場していました。最近のシニア世代の印象は？
いやあ、若くなりましたね。昔は60歳ぐらいで腰が曲がってしまうイメージがありました。今は腰が曲がっている人

がほとんどいません。私の母は90歳、父は85歳ぐらいですが、2人とも若いですよ。実家に帰ったときは一緒にお酒を飲みます。ただ年々弱くなっているようで、それは寂しいですが…。
―飲むのはやはり、青森の日本酒？
日本酒は好きですね。東京でも青森の「田酒」が飲めますから。でも、

それだけじゃなく宮城や福島も好きです。日本酒は1回3合ぐらいを目安にしています。毎日飲むのはウイスキーや焼酎ですね。
―今年50歳を迎え、健康で気を付けていることは？

あまり無理はしないようにしています。昔相撲をやっていたので体力があると思いがちですが、40代は運動不足でしたから。酒が好きなので、これからの目標は酒を飲める体を保ちたいです。
―いきいきと生きるために、普段から心掛けていることは？
過去を忘れる。過去を引きずる人は先行きも暗いと思います。前のことより、これからのこと。講演でも言いましたが、ユーモアを大切にしたいです。20代、30代、40代、たくさん相撲仲間が亡くなっています。人間いくら食生活や健康に気を付けても、体を壊す方もいると痛感しました。
特に真面目な、悩む性格の人は気を付けた方がいいかもしれません。笑

前のことより、これからのこと ユーモア大切に おおらかに生きる



終始自然体で気さくな舞の海さん。東京から日帰りして来仙した

舞の海秀平 (まいのうみしゅうへい) 50歳 *profile*

高校教師の内定が決まっていたが、夢だった大相撲入りを決意。新弟子検査の基準(当時)の身長に足りなかつたため、頭にシリコンを入れて検査に合格。角界最小の身体ながら「猫だまし」「八艘(はっそう)飛び」など数々の技を繰り出し「技のデパート」の異名を持つ。1999年11月の引退までに技能賞を5回受賞。現在はNHK大相撲解説者を務める他、テレビやラジオなどで活躍中。生まれ育った青森県鯉ヶ沢町の「ふるさと大使」や、2011年から近畿大経営学部客員教授を務める。

―今年50歳を迎え、健康で気を付けていることは？
あまり無理はしないようにしています。昔相撲をやっていたので体力があると思いがちですが、40代は運動不足でしたから。酒が好きなので、これからの目標は酒を飲める体を保ちたいです。
―いきいきと生きるために、普段から心掛けていることは？
過去を忘れる。過去を引きずる人は先行きも暗いと思います。前のことより、これからのこと。講演でも言いましたが、ユーモアを大切にしたいです。20代、30代、40代、たくさん相撲仲間が亡くなっています。人間いくら食生活や健康に気を付けても、体を壊す方もいると痛感しました。
特に真面目な、悩む性格の人は気を付けた方がいいかもしれません。笑

―これから挑戦したいことはありますか？
全くありません(笑)。今日もそうですが、こうして声を掛けていただけて、仕事をいただけることに感謝です。感謝の気持ちを忘れずに日々過ごしています。



「2018 いきいきシニア初春のつどい」で講演